

足踏みしている余裕なし

男女平等参画と持続可能性の向上へ

【機関紙JAM・2024年5月25日発行 第304号】

世界経済フォーラム（WEF）は、昨年6月に男女格差の現状を評価した「Global Gender Gap Report」（世界男女格差報告書）の2023年版を発表した。日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位で、前年から9ランクダウンとなっており2006年の公表開始以来で最低である。

特に、政治分野の順位は146カ国中138位で前年から改善がみられていない。衆議院議員の女性比率が1割にとどまる世界最低クラス。男女格差が埋まっていないことが浮き彫りとなっている。

経済分野は123位で、こちらも前年から足踏み状態にある。労働者数の男女比、男女間賃金格差などあらゆる項目に課題が示され、女性管理職比率の低さは世界的にみても下位に属している。

日本のジェンダーギャップ指数は、2006年は115カ国中80位だったがスコアの改善は進まず、順位の下落が続いて2023年の125位は過去最低だった。他国が格差解消の取り組みを進める間、日本は足踏みしてきたと言える。

JAMは結成以来から男女平等参画社会の実現に向けた「男女平等参画の推進」を運動方針に掲げ、現在は「新男女平等参画アクションプラン～総行動プラン～」の実現に向けて、女性の参画拡大に全組織を挙げて取り組んできた。

2024年度「JAM女性活動実態調査」報告によると、加盟単組における女性役員比率が前回調査（2020年）から1.7ポイント増加し9.4%となった。「計画的な女性役員の増員を検討している」と回答した単組の割合も増加しており、組合活動の様々な場面で女性の声を反映することの重要性が認識されてきているものと考えられる。

一方で、「男女平等参画に関わる運動方針を掲げていない」単組の割合が過半数に及ぶなど、新男女平等参画アクションプランにおいて全組織に求めている総行動プランが、実践されていない課題も本調査で明らかになっている。

男女平等参画の推進は、国際社会で共有された規範であり、個性と多様性を尊重する社会において不可欠な要素である。SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられている「ジェンダー平等を実現しよう」にも通じている。

「持続可能なものづくりへ」の実現に向けて、男女平等参画の取り組みに足踏みしている余裕はない。

副書記長 川野英樹